

RKU Today

流通経済大学広報誌

AUTUMN 2012

【特集】

ロンドンオリンピックを振り返る



流通経済大学

vol.21

04	【特集】	文: 荒井宏和 (スポーツ健康科学部准教授)
ロンドンオリンピックを振り返る		
10	【学長室だより】	小池田富男 (流通経済大学長)
文部科学省「大学改革実行プラン」に思う		
12	【連載】 英語のなかに歴史を読む 第4回	石田 譲 (経済学部教授)
ジェントルマンの世界を伝える言葉		
14	Close Up!	流通経済大学
[教職員紹介]		
16	【馬場啓一のRKUウォッチング】	文: 馬場啓一 (法学部教授)
「流経大の就職率が高いわけ」		
島影義和 経済学部教授		
18	【OB/OG 訪問】 立川が聞く。	取材: 立川和美 (社会学部准教授)
碓美穂子さん (2010年3月卒業・大阪プレイビーハニーズ選手)		
20	【留学生紹介】	取材: 沖野雅広 (企画広報室)
林 晶晶さん (中国出身) 「『カワイイ』ものを自分の目で見つけて 販売することが私の夢です」		
21	第49回日本私立大学連盟教職員野球大会 優勝	
22	NEWS & TOPICS	

海浜実習/AED講習会/オリンピック代表選手壮行会/2012年度 第1回読書コメント大賞



社会学部の木村君が、視野を広げるための一人旅で出会った美しいオーロラ(カナダで撮影)

ギリシヤの賢人は説いた。
汝己を知れ。
自分は何者であるか、
それを知るのには人生において重要なことで、
これ以上のことは有り得ない。
孫子は、こうだ。
敵を知り、己を知らば、百戦危ふからず。
自分と相手を知っていれば戦いなんて簡単。
そうだろう。
だがこれは至難の技だ。
そして大学とは、自分を知るための
掛け替えない場所に他ならぬ、と知る。
ピンボール・マシンのボールのように様々な
相手とぶつかり合いながら自分を磨き、
そこから自分を見つけていく。
大学生活とは、そのためにある、と悟れ。

ロンドンオリンピックを振り返る

4年に一度のスポーツの祭典であるロンドンオリンピックに、本学からも在学生・卒業生合わせて4名の出場者を排出した。選手たちの努力の粋、一瞬のかけひき、そして輝きに世界中が歓喜したオリンピックの裏側で、日本の戦略研究のサポートをされた荒井先生に、今回の大会を振り返ってもらった。

文：荒井宏和（スポーツ健康科学部准教授）

London Olympic Games 2012



開会式の演出

二〇一二年七月二十七日、第三〇回ロンドンオリンピック大会が開幕した。過去に同一都市で三回も開催された前例のないものであり、我が国にとって今回の参加は、三回目にして初参加となった。さらに一九一二年のストックホルム大会に三島選手と金栗選手が初参加してから一〇〇周年の節目を迎えることとなった記念すべき大会である。時差の関係もあり、多くの日本国民が深夜のテレビ中継で寝不足となったに違いない。国際オリンピック委員会（以下、IOC）のテレビマーケティング部による調査では、北京オリンピックのときよりも三億人多い、四八億もの人々がテレビ観戦をし、アメリカでは一〇歳代の視聴率が北京大会よりも二九％アップし、女子の増加率は五四％であったという。

開会式のセレモニーでは、イギリスの農村風景がスタジアムに表現され、牧歌的な雰囲気伝わってきた。時間の経過とともに、イギリスから始まった産業革命の様相が醸し出され、溶解炉をイメージした光景から五つの輪が空中に現れ、その火花にみとれるほどの

まったのである。

日本選手団のメダル獲得数が史上最多

日本選手団は、大会が始まる前に今回のオリンピックで金メダル一五〜一八個、そして世界第五位を目標として定めた。これは過去の世界選手権やワールドカップの成績を分析した結果、算出された数字である。結果的に日本選手団は史上最多のメダル総数三八個を獲得した。その内訳は二四競技のうち一三競技でメダルを獲得。出場した半分以上の競技でメダルを獲得したことになる。過去の大会を振り返るとアテネでは一〇競技、北京では八競技でメダルを獲得したことを考えると、今回のロンドン大会では従来メダルを獲得したことがない競技の活躍があったことになる。諸外国の状況と比較しても、我が国は第六位（一位は中国の一七競技、二位はアメリカ、イギリス、ロシアの一六競技）に位置づけられる。

では、どのような競技の活躍があったのか。それにはマスコミヤテレビのコメントで表現された、「史上初」や「数年ぶり」という言葉がキーワードになる。史上初

素晴らしい演出だった。

また、映画「007」によるエリザベス女王の演出は、同様に日本で行うとしたら…など、内心のたずらなげに想像が膨らんだ。日本選手団は九五番目に入場し、赤のスーツがひときわ目立った。その様子からリラックスした雰囲気伝わってきたが、よく見ると知り合いのコーチや役員、選手が映っていた。

さて、ロンドンオリンピック組織委員会委員長のセバスチャン・コー氏のスピーチでは「スポーツは協調と友情そして平和の絆で結びつけ、人類のすばらしさを祝うものである。（中略）スポーツは、真実、純粋さ、ドラマ、激しさ、そして精神がある。オリンピックの全てのスポーツには人生を価値あるものとする全ての要素を含む。人間が能力の限界に挑み、自らが達成できることに希望を与えられ、才能を活かそうと考えられる以上の努力をし、その瞬間を生きると同時に、歴史に消えることのない跡を残す。（後略）」と述べた。これはロンドンでオリンピックが開催されるにあたって相当な準備をしてきたリーダーの熱い思いでもあり、スローガンでもあった「世

のメダル獲得となった競技種目は、団体種目が多く、女子サッカーや女子アーチェリー団体、女子バドミントンダブルス、女子卓球団体、男子フェンシングフルール団体であった。個人では三宅宏美選手の女子ウエイトリフティング、村田諒太選手の男子ボクシングミドル級（複数階級でメダル獲得も史上初）、松本薫選手の女子柔道57kg級や小原日登美選手による女子レスリング48kg級の金メダルがある。その他、伊調馨選手の女子レスリング63kg級や吉田沙保里選手の58kg級のオリンピック三連覇も史上初となる。

また、数年ぶりにメダルを獲得した競技は、男子体操個人総合と女子バレーボール（一九八四年のロサンゼルス大会以来二八年ぶり）。松本隆太郎選手の男子レスリンググレコローマン、女子競泳メドレーリレー（二〇〇〇年のシドニー大会以来のメダル獲得）。さらにメダル獲得には至らなかったが、新体操団体総合（二二年ぶりの決勝進出）、男子カヌーカナイアン（二八年ぶりの入賞）、男子陸上十種競技（四八年ぶりの出場）など歴史的快挙を果たした種目もあった。

代を超えたインスピレーション」を意味するメッセージであった。IOCロケ会長のメッセージでは、大会組織委員会、ボランティアスタッフへのねぎらいの言葉が述べられ、カタール、サウジアラビア、ブルネイの女子選手による初参加によって、二〇四の国と地域から女性アスリートの参加があったことが紹介された。このことは、今後中東諸国を中心とした女性アスリートの参加によって、メダル獲得国の勢力図に大きな変革をもたらす歴史的意義のある大会を意味することになる。また、スポーツのフェアプレーについてアンチドーピングの件にも触れた。薬物によって勝利を得ようとする行為は、相手を尊重し、敬うことへの侮辱であり、スポーツそのものの価値を損なうことを意味する。クライマックスの聖火点火式では、ベッカム選手の演出から引き継ぎ、最終的に七人のオリンピックによって灯され、聖火は各国に配られた。これはまさに「世界の次世代にスポーツの素晴らしさと夢を伝える」というコンセプトを意味する。そしてロンドンでの開催が決定して七年間の準備を経て、いよいよ興奮のオリンピックが始

ロンドンオリンピック

(第30回オリンピック競技大会)

開催期間/2012年7月27日~8月12日

開催都市/イギリス ロンドン

参加国・地域数/204

参加人数/約11,000人

競技種目数/26競技302種目

この背景には、長期計画に基づく資金の投入があった。二〇〇五年にオリンピック招致に成功したイギリスは、ロンドン大会での躍進を狙った強化計画「ミッション2012」を二〇〇七年に開始した。政府はスポーツくじの収益などから毎年約一億ポンド（約一二三億円）の強化費を支出。強化主体の特殊法人「UKスポーツ」が有望選手を選出し、国内合宿や遠征費などの名目で一人年間五万五〇〇〇ポンド（約六四七万円）の支援をした。さらに、十分なスポンサーが得られない選手を救済するため、生活費の名目でも選手が資金を受け取れる制度も創設。オリンピックメダル候補、八位入賞候補、出場レベルの三段階に分け、最高で二万七三七ポンド

これらの成果の背景には、選手育成に対する長期計画と選手サポート、とりわけ文部科学省が五億四〇〇〇万円の予算で現地に設立し、情報医学で側面支援するマルチサポート（ハウス）の貢献があった。これは、北京大会の前に設立され、広州アジア大会において初めて大会現地で導入された。また、競技成績の分析を行い、メダル獲得が有望な一九競技（夏一七、冬二）をターゲット競技として設定。Aランク、Bランクに分け約七三億ポンドを重点配分した。その結果、Aランクの八競技のうち、メダルを獲得したのは柔道男女、競泳男女、体操男子、陸上男子ハンマー投げ、レスリング男女、サッカー女子の六競技であり、Bランクのアーチェリー、バドミントン、卓球などの競技にも貢献があった。

ロンドン大会では開催期間中、大会会場に隣接する建物にサポート拠点を設置され、選手村に入村した二二競技のうち二〇競技、合計四二七名の選手、コーチが活用した。ここでは、様々な意味で日本と同じ環境と空間を設置することによって、選手が安心して競技に臨める環境づくりがコンセプト

トである。具体的な例として日本食の提供、マッサージや炭酸水のリカバリープール、映像分析ルームなど細かい配慮が準備されている。

スポーツ医学の貢献も大きい。トリアスロンではバイクの前傾姿勢での着座データを計測し、背部分に伸縮性のある編み物素材を組み込んで可動性を向上させ、ランで地面を蹴る力を強めるために骨盤を安定させる独自機能を盛り込み、いわゆるハイブリッド型のスーツをスポーツメーカーと共同で開発した。その他、一二万件の試合映像データベースが、ネット回線がある場所ならどこからでも検索できるシステムの構築など様々なサポートが貢献した。これはほんの一例だが、現場、大学、メーカーが一体となって研究開発を行ってきた。

このように、限られた強化資金を選択と集中で、メダルを獲得する可能性のある競技には、資金の重点配分をし、サポートスタッフを配置し、医学、情報、マテリアル開発の側面から長期戦略プランに基づいたチームジャパンが完成したのである。

ド（約三四〇万円）を得られるようにした。

資金配分の多かった自転車トラック競技で金七個、ボート競技で金四個を獲得したが、その多くはプロサイクリストや軍隊所属であり、これらのアスリートが金メダルおよびメダル総数の拡大に貢献した。

体操男子団体では惜しくも日本チームに破れたが、同種目でメダルを獲得したのは、一九一二年以来一〇〇年ぶりとなる。この背景には、イギリススポーツ研究所とイギリス体操協会が連携し、スポーツ医学、ストレングス&コンディショニング、フィジオセラピー、パフォーマンスライフスタイル、映像分析、筋セラピー、栄養、心理など四年間で合計四万四一四五時間、一四万八一六六・一九ポンドをサポートに費やしたことがある。

これらのサポートは、異分野異業種との積極的な連携によって成果が実を結んだ。特に、BAEシステムズ社による軍事産業を応用したスポーツテクノロジーは、一〇〇分の一の精度で射撃のタイミングを向上させる技術に貢献。また他の企業は、護送車を移動式

外国人選手はどう戦ったか？

《女子選手の活躍》

今大会参加二〇四の国と地域のうち、八五の国と地域がメダルを獲得した。その数は北京オリンピックの八六にはわずかに届かなかったが、バレーン、ボツワナ、ガボン、キプロス、モンテネグロ、グレナダ、グアテマラの七ヶ国から史上初めてとなるメダリストが誕生したことを考えると、メダルを獲得した国が一層、拡散したことになる。

今回のロンドン大会は、ボクシングに女子種目が採用されて二六競技全てに男女がそろい、ブルネイ（一名）、カタール（四名）、サウジアラビア（二名）が女子選手を派遣したことで女子の参加歴がない国がゼロになった。カタール史上初めて派遣された射撃エアライフルのバヒ・ハマド選手は選手団の旗手も務めた。カタールの場合、二〇一六年と二〇二〇年のオリンピック招致に一次選考で落選し、二〇二四年の招致を目指している。これを成功させるには、IOCが求める女性のスポーツへの進出をアピールする

必要が背景にあるのではないかとされている。サウジアラビアのウオジダン・シャハルハニ選手（一六歳）は、柔道女子78kg級で特製のヘジャブ（女性が髪を覆うスカーフ）を着用して出場したが、開始一分二秒で破れてしまった。サウジアラビアの学校では女性が体育の授業さえ受ける機会がない中、宗教上の制約もあることを考えると、価値ある参加であった。IOCの女性スポーツ委員会アニタ・デフランツ委員長も、「歴史的な舞台となり、とても喜ばしい」と語っていた。



《開催国イギリスの躍進》

開催国となったイギリスの選手に対する地元の期待と歓声は、選手の闘争心を高め、メダル獲得への後押しとなった。

結果的に、金メダル二九個（第三位）、メダル総数六五個（第四位）となり、前回の北京大会（金一九、総数四七個）を大きく上回った。

低温チャンバーに改造。アスリートのリカバリーに活用された。さらに試合で録画された映像やデータは、村外のコーチやアナリストの携帯端末に送信され、分析されたデータはそのまま次の対戦相手の戦術に還元された。

今回の成果をイギリス国民はどのように感じているだろうか？イギリスBBCが行った世論調査（二〇〇二人が回答）では、「ロンドンオリンピックが建設的な影響をもたらした」と感じた国民が八三%に上り、六四%が「オリンピックに税金を投入しただけの価値があった」と回答した。さらに五六%が、「自身の生活にもよい影響を及ぼした」と回答した。しかしながら一方では、国内経済への好景気となる本質的な影響はないとの分析もあったが、今回のオリンピックは、このあと行われたパラリンピックも含めて、イギリス国民にとって物質的な豊かさよりも、心の豊かさをもたらした影響のあるスポーツイベントであったに違いない。

《次回冬季オリンピックを控え、ロシア柔道に初の金メダル》

二〇一四年に冬季オリンピック

が開催されるロシアは、そこに向けた勢いを今回のロンドン大会で発揮したいと考えていた。その結果、八二個のメダルを獲得し、金メダルは二四個であった。陸上、シンクロナイズドスイミング、レスリングは伝統的な競技として定着している。そのような中で、柔道は全体で男女七階級、合計五六個のメダルを二三の国と地域が分け合うことになるのだが、ロシアの男子柔道は金三個を含む五個のメダルを獲得。このうち、アルセー・ガルスチャン選手（60kg級）らが、ロシア柔道に初めての金メダルをもたらした。

《北京オリンピック後の中国》

中国は三九六名の選手（平均年齢二四・六歳）、一二五名の役員で構成された選手団を派遣。サッカー、馬術、ハンドボールを除く二三競技に出場した。北京オリンピックの金五一個には届かないが、アメリカに次ぐ二位の三八個を獲得した。競泳女子四〇〇m個人メドレーの葉詩文選手の世界記録は、外国メデイアから疑問を抱かれることもあったが、正式な記録として評価されている。また、競泳男子一五〇〇m自由形の孫楊選手は、

大会中に起きた事件

四個のメダルを獲得した。彼のメダル獲得には、オーストラリアのデニス・コトレル氏の功績が讃えられ、二年間で一億二四〇〇万円の費用が使われた。

このような中で、中国は、北京大会までのメダル至上主義を修正し、スポーツの発展を促すことが、金メダル獲得よりも重要とし、国家の威信誇示が、以前よりも重要でないという考えに転換していた。また、今回の大会では中国選手の海外移籍が目立つ形となった。卓球ではオランダやポーランド、シンガポール、ドイツチームなどに、中国から国籍を変更して出場する選手が存在した。これは中国の選手層の厚さを意味する。実際にコーチが外国選手を指導する事例はあるが、選手に関する問題については、国際オリンピック委員会の動向が注目されることになるだろう。ちなみに、中国の帰化選手が目立つ中、女子三段跳びのイギリス代表となったヤミレ・アルダマ選手は、二〇〇〇年のシドニー大会ではキューバ代表、二〇〇四年のアテネ大会では、スーダン代表として出場した。開催国のイギリス代表選手団五四二人のうち、約一割が帰化選手であった。

事件として扱うか迷うところだが、今回のサッカー男子で起きた国家斉唱の件は、イギリスの歴史や地域問題を再認識させることとなった。サッカーは、五二年ぶりにオリンピックにイギリス代表として出場。そしてイングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドの四つのサッカー協会から代表チームが編成された。しかし、ウェールズで行われた試合では、地元出身の数名の選手が国家である「ゴッド・セーブ・ザ・クイーン」を斉唱しなかった。このことは、歴史的背景を学ぶ意味でも、スポーツ健康科学部の学生だけではなく、他学部の学生にも知っておいてもらうと良いかもしれない。

次に、今回のオリンピック大会では、テロ攻撃に対する懸念があった。一九七二年のミュンヘンオリンピックでパレスチナゲリラがイスラエル選手宿舎を襲撃し、十一名の選手役員が死亡した事件から四〇年がたった。テロへの対策は、民間警備会社G4S社や、警官、情報機関要員らがあたり、軍隊が迎撃ミサイルを配備す

本学関係のロンドンオリンピック代表選手

本学には、一九六四年に開催された東京オリンピック中量級の金メダリストでもある、岡野功名賞教授やアトラントオリンピック代表で社会学部の田中光教授、モスクワオリンピック代表で社会学部の喜多秀喜教授、アテネオリンピック、北京オリンピック代表の田山寛豪さん(本学職員など、優秀なオリンピックアングラー)がいる。

今回本学関係者から出場した選手は、トリアスロンの田山寛豪選手、サッカーの山村和也選手、柔道81kg級の中井貴裕選手、同じく柔道81kg級のナウル・チョサテキ選手である。ナウル選手は入場行進でフィジー選手団の旗手を務めるなど大役をこなした。テレビの解説では日本の高校、大学で学ん



ナウル選手(左)と田山選手(右)
(写真提供: 田山選手)

だだけの紹介があったが、せめて「流通経済大学」とアナウンサーに言っただけだったと心の中で思っていた。一回戦では世界選手権三位のムルバリエビッチ・モンテネグロ選手と対戦した。中井選手は、三位決定戦で敗れた。試合後のインタビューでは、日本代表選手として、世界で戦った男の本当の悔し涙を見た。ここまで世界で上を目指し、勝負する姿は同じ学生として皆さんの目にはどのように映ったのだろうか? 田山選手は、日本選手団壮行会では直接会うことができなかったが、今回も含め三大大会出場したオリンピックで二〇位という成績を残し、トリアスロン界へ功績を残した。山村選手は、男子サッカーで初のメダル獲得選手となるか期待が寄せられたが、今回の代表の経験は、後輩たちにとって誇りとしてつながることを期待したい。

今回のオリンピックは、私にとって、アテネ、トリノ、北京、バンクーバー、そしてロンドンと日本選手団を陰ながらサポートする機会となり、次のソチオリンピックを迎えるための準備が既に始まっている。



銀座で行われたメダリストのパレードに象徴されるように、スポーツには、人々を魅了する影響力がある。スポーツを勉強している本学スポーツ健康科学部の学生やスポーツに興味がある他学部の学生にも、スポーツと観光、スポーツと法(スポーツ仲裁機構)、スポーツと経済、スポーツと人権、スポーツと倫理(ドーピング)、スポーツ(イベン)と物流、スポーツと教育、スポーツと社会、スポーツと最先端科学など、本学にはスポーツと関連したあらゆる分野で学ぶ環境がある。

るなど高度の警戒があった。

今回のオリンピックでは、審判が関与した判定の特異的事例が目立った。ボクシング男子バンタム級二回戦では、清水選手とマゴメド・ドゥルハミ選手の間で起きた判定で、レフリーと国際競技役員が行った規定違反として追放された。フェンシング女子エペ個人準決勝で韓国の申選手が延長残り一秒から決勝点を奪われ敗退。審判のミスにより時間を過ぎていたと主張し、ピストに座り込んで抗議したが判定は覆らなかった。パドミントンでは無気力試合が問題になった。韓国の二組と中国、インドネシアの各一組の選手が失格となり、その後、韓国とインドネシアが処分を不服としたが、オリンピックの精神と公平な競争に反するものと判断し、訴えは認められなかった。柔道では、男子66kg級の海老沼選手と韓国の選手の対戦で、旗判定がジュリーの介入で覆った。国際柔道連盟は、ビデオ判定の導入は円滑に機能しているとしていたが、微妙な状況を判断するための補助的な役割に過ぎないとしており、ジュリーの権限が明確化されていないため、今後の検証が不可欠であるとされている。この

オリンピックとメディア

件は、男子柔道の篠原監督が現役時代に起きた、あの事件を思い出すにはいられない。体操陣は国内の強化練習でもフランスのジムノバ社製の堅い器具を導入し、本番に順応できるように対策を講じたが、本番会場での練習で落下するなど不安があった。山室光史選手、加藤凌平選手の着地に乱れがあったのもそれが原因であったかどうかはわからない。体操男子団体総合決勝では、内村航平選手最後のあん馬で、倒立のバランスを崩した状態で終え、終末技としてポイントが加算されなかったが、森泉コーチらが審判にプロテストを行い、ビデオ判定で一〇度確認され、最終的にそれが認められ銀メダルを獲得することとなった。

今回の試みのひとつとして、インターネット中継が導入された。民放は共同公式動画サイトを開設し、スマートフォンでも視聴できるように合計一五〇時間の試合をライブ中継した。通常のテレビ中継のようにアナウンサーによる解説や日本語字幕はない。そのかわり、地上波やBSで放送しない

マイナー競技を知る機会にもなり、フェイスブックやツイッターのよいうなソーシャル・ネットワークキング・サービス(以下、SNS)で結果を知ることができた。そのせいか、今回のオリンピックが「ソーシャル・オリンピック」として注目されていた。選手がツイッターなどで自由に発言する機会が増えた一方、スイスのミシェル・モルガネラ選手による韓国人選手の人種差別的発言や、ギリシャのパラスケビ・パパリストゥ選手のアフリカ移民に対する差別的な文章が問題となり、選手団から追放された。IOCは事前に今大会からガイドラインを設け、SNSでの発信を推奨していたが、これらの発信は、いかなる差別も禁じたオリンピック憲章に抵触したという点である。

最後に

オリンピックが終わり、各国はすぐに分析評価に取りかかる。オリンピックに向けた計画がどのくらい実現できたのか、何が足りなかったのか。そして四年後、八年後の将来を見据えた強化育成計画が実行されるのである。その時に重要になることは、メダルを獲得

するという目標やプロセス、そしてそこで生じた問題を解決すること、人類の文化や社会に及ぼすレガシーとなり、人々に与える豊かな満足感として記憶に残ることなのではないかと思う。

来年の今頃には、二〇二〇年に東京でオリンピックの開催が決定していることを願いたい。

最後に、IOCのロゲ会長による閉会式のメッセージである。「忘れたい一七日間で、多大な恩を受けた。大会組織委員会とそれを支えた公的機関は素晴らしい仕事をしてくれた。ボランティアの笑顔と親切な手助けを決して忘れない。大会に欠かせないヒーローたちだった。

観衆と一般の人々は大会の雰囲気をつくり出した。熱狂的な声援が選手を力づけてくれた。選手諸君は世界の



〔学長室だより〕

文部科学省

「大学改革実行

プラン」に思う

学長 小池田富男



vol. 14

Tomio Koikeda
Gakuchoshitsu Dayori

我が国の高等教育行政において、「大学設置基準の大綱化」(一九九二)以来の「規制緩和と競争」を軸にすすめられてきた大学改革が、再び政治主導による「上からの改革」へと大きく左旋回したのは、二〇〇一年七月に発表された「遠山プラン」からであろう。この「遠山プラン」は、「大学が変わる、日本を変える」という副題を持ち、さしあたりは国立大学を対象に、①国立大学の再編・統合、②国立大学に民間的経営手法の導入、③第三者評価による競争原理の導入を三本の柱にした、大学改革への提言であった。

これ以降、国公立大学の「法人化」とどまらず、二〇〇四年前後からは私立大学をも巻き込む形で、「認証評価制度」の導入や、大学院教育の振興(専門職大学院の設置)等が矢継ぎ早に実施され、今日の高等教育行政の骨格がほぼ出来上がった。そしてその集大成とも言うべき「大学改革実行プラン」が「国家戦略会議」に報告された内容であり、今までに

なく大学の教育研究の内容にまでも深く立ち入ったものだということである。

いうまでもなく「国家戦略会議」は、経済運営の基本方針等、国家の重要な政策推進のための司令塔として、昨年一〇月の閣議決定に基づいて設置されたものであり、内閣総理大臣を議長に、官房長官並びに担当大臣等を副議長に、主要閣僚や有識者を構成員とするものである。この会議の中で、今後の我が国が直面する諸課題を解決していくためには、教育改革など、必ず大学改革とグローバル人材の育成が不可避であるとし、これに政府が自ら積極的に取り組む姿勢を示した。

第一に「激しく変化する社会における大学の機能の再構築」として、①大学教育の質的転換と入試改革、②グローバル化に対応した人材育成、③地域再生の核となる大学づくり、④研究力の育成を、そして第二に「大学のガバナンスの充実・強化」として、⑤大学の枠を超えた連携・再編、⑥大学改革を促すシステム・基盤整備、⑦財政基盤の確立と私学助成の改善等、⑧大学の質保証の徹底を内容

とするものであり、これらを平成二四年度から順次、計画実行に移そうというのである。

高等教育行政が、大学改革のための環境整備という本来の姿にとどまらず、ここまで深く教育内容にまで踏み込むことについては、「学府」としての大学が時の政権や大衆の思惑から一定の距離を置き、それぞれの個性を維持しながら、長期的視野から学術研究と人材育成に取り組みなければならぬ。公共性に鑑みて、少なからぬ懸念や違和感を抱かざるを得ない。等しく教育行政と言っても、初等中等教育と高等教育とは、おのずから対応は異なるものでなければならぬからである。

たしかに我が国は今、長期にわたる経済的低迷の中で人口減少と高齢化が進み、そのうえ昨年三月の東日本大震災と深刻な原発放射能漏れ事故による危機の中にあって、今後とも世界の中での存在感を高め、経済を再浮上させるには、何よりも創造的で活力ある若い世代の育成が急務であろう。かつて経験したことのない「人口減少社会」にあつて、これからも同じ経済力を維持していくには、労

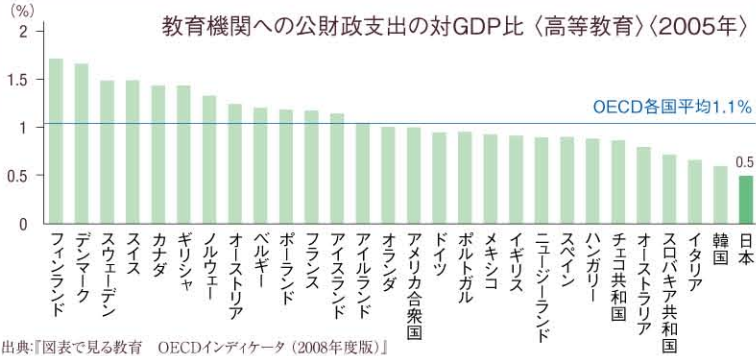


〔学長の活動〕 2012年7月～9月

- 7月
 - 1日 私立大学連盟 学長会議(京都)
 - 3日 自己点検評価実施委員会
 - 7日 高等教育の振興に関する協議会(龍ヶ崎) 学部長連絡会議
 - 10日 キューバ大使館参事官来訪
 - 12日 本学オリンピック選手団社行会 常磐大学森学長を訪問
 - 14日 父母懇談会(新松戸)
 - 24日 教員免許状更新講習実施委員会 全学入試協議会 茨城新聞支局長来訪 社会学部納会出席 日本通運株式会社 渡邊社長を訪問
- 25日 父母懇談会(宇都宮)
- 29日 校友会静岡県支部総会出席 全学FD研修会
- 31日
- 8月
 - 2日 タカラビルメン株式会社 千田社長来訪
 - 7日 教員免許状更新講習判定会議
 - 8日 谷川真理客員教授来訪
- 9月
 - 4日 田山、中井選手慰労会
 - 13日 全学入試協議会
 - 14日 正則学園高等学校訪問
 - 21日 筑波技術大学開学25周年記念式典出席
 - 25日 全学入試協議会
 - 29日 春学期卒業式

働者一人あたりの高い付加価値生産性を確保しなければならず、創造的価値を生み出す人材の育成が不可欠であることは言うまでもない。また市場や企業の経済活動のグローバル化に伴い、国際的に活躍できる「グローバル人材」の育成も急務となる。しかし、これらの目標を達成するためには、若い世代のできるだけ多くに高等教育を受ける機会を与え、未知の才能を引き出す必要があるのではなからうか。相変わらず五〇%台に低迷したままのわが国の大学進学率を、少なくとも北欧並みに七〇%水準にまで引き上げることが肝要である。そのために、初等中等教育全体の底上げを図り、また対GDP比でOECD加盟国の最低レベルにある教育

への公財政支出を拡大して、公的奨学金制度の充実と高等教育の八割を担う私学への助成を拡充する必要があろう。将来を担う個性と才能を持った人材の育成というのであれば、教育研究の画一化をもたらずだけの「改革」は避けるべきではなからうか。国公立大学の統合や首都圏の一部マンモス私学の規模拡大は、適正な競争を損なって寡占化を進めるだけであり、教育の多様性を損なうものとして抑制すべきである。何よりも必要なのは、初等中等教育を再構築し、卒業者の七割以上を高等教育にまで進ませるだけの「教育力」の向上を図ることではないだろうか。そのこと抜きに、いかなる「大学改革」も実効性を持つまい。



高等教育への財政支出

我が国の高等教育への財政支出は、先進国では最低水準であり、公財政支出の対GDP比は0.5%の水準のままである。また公財政支出と私費負担を合わせた教育支出の対GDP比も5.0%でOECD中最低であり、しかも1995年～2006年の10年間の教育支出の伸び率が、英国では55.8%、米国46.3%、OECD平均が37.5%なのに、日本は3.1%しか増加していないのである。

毛織物業はイギリスの中世以来の伝統的産業で、イギリスの田舎を歩いて一番よく出会う動物は、今でも羊だといわれる。イギリスは、昔も今も「羊の国」である。

そのイギリスはまた、「ジェントルマンの国」ともいわれるが、歴史的にみると「ジェントルマン」と「羊」の結びつきは強い。古くからの羊毛産出国(図1)であったイギリスでは、一五世紀末から一六世紀中頃に掛けて羊毛生産のために耕作地を牧羊地に転換していく「囲い込み」が進展したが、この囲い込みを積極的に推進し、さらには毛織物業にも投資して大きな富を蓄積していったのがジェントリ(gentry)と呼ばれる地主層で、その羊毛と毛織物に深くかかわったジェントリこそが、ジェントルマン(gentleman 図2)のルーツなのである。

イギリスの経済発展は羊毛と毛織物の生産によって支えられ、一六世紀になる Half of the wealth of England rides on the back of the sheep (イギリスの富の半分は羊の背に乗っている)といわれるようになった。また、古くから自家用に糸を紡いで手織りの服を作る農民も多かったから、毛織物は人々の生活の隅々に行き渡り、たとえば web of life (人生の織物)は「人の運命」、homespun (自分の家で紡いだ)は「やぼったさ」、dyed in the wool (織る前の毛糸のうちに先染めした)は「完全な」を意味するなど、毛織物に由来する言い回しや比喩がいくつ

うというより、実は、lady と gentleman という言葉の格式の差に根ざしているのである。ジェントルマンの中核をなすジェントリは貴族 (noble) の下に位置する階層であったが(貴族が公爵から男爵までの爵位を持つのに対し、ジェントリは身分的には平民)、lady はといえば、元々は lord (貴族) の妻や娘に対する敬称であった。したがって、歴史的には gentleman より lady の方が地位が高く、その身分差が呼びかけの語順に反映したとみなせるのである。

ジェントルマンの概念に本来のジェントリのみならず貴族が含まれるようになったのは、平民であるジェントリが貴族に劣らぬ資産を築いて台頭し、ジェントリの上層と貴族との間に実質的な差がなくなったからである。こうして、ともに大地主である貴族とジェントリが一つの階層とみなされるようになり、一七世紀の半ば以降、かれらが国の議会(上下両院)の大半を占めて政治の実権を握り、イギリスは「数百人の貴族と数万人のジェントリからなるジェントルマン」が支配する国になっていった。

貴族院ともいわれ貴族が自動的に議員となる上院の議長席は、中に羊毛が一杯詰められている大きなクッションで「羊毛袋」(woolsack ウールサック 図4)と呼ばれ、そこから take seat on the woolsack (羊毛袋に座る)と言えは「上院の議事を始めること」を意味し、reach the woolsack (羊毛袋に到

も生まれた。spinsters (紡ぎ女 図3)が「未婚女性」を意味するのも、女性は一人前に糸を紡げるようになって初めて結婚できるとの考えから、糸紡ぎが結婚前の女性の花嫁修業的な仕事になっていったためである。

ところで、ジェントリというのは法律上の厳格な身分ではなく、囲い込みが行なわれていた頃は貴族とヨーマン(富裕な自営農民)との中間に位置する階層を漠然と指している、その中核を構成していたのが、牧羊業をはじめ近代的な土地経営に手腕を発揮して勃興した地方の地主層なのであった。

一方、ジェントルマンという語は、もともとはジェントリとほぼ同じ意味で使われていたが(原義はともに「高貴な人」、次第にその概念を広げて、地主のジェントリ以外に貴族や大商人や知的職業人(聖職者・法律家・医師・上級官吏など)をも含むようになり、さらには、上品で礼儀正しい男性⇨紳士の意味で用いられるようになった。そして現在では、新幹線などでよく耳にする「レディース アンド ジェントルメン (Ladies and gentlemen)」という呼びかけにみられるように、単に男性一般に対する敬称としても使われ、この言葉が本来もっていた身分階層的概念は薄れてしまっている。

それはさておき Ladies and gentlemen と呼びかけるとき、なぜ ladies が先にくるのだろうか。レディーファーストの表れだと思いがちだが、これは女性に敬意を払う(達する)という表現は「上院議長になること」を意味するようになった。上院議長席の woolsack は、羊毛が富の源であったイギリスの歴史を象徴するものなのである。

一方、平民のジェントルマン(ジェントリ)は選挙で議員を選ぶ下院(庶民院)で多数を占めたが、その下院で目を引くのが、ソードライン(sword line 剣線 図5)と呼ばれる床の赤い線である。これは、かつて議員が帯剣を許されていた頃、議論が沸騰し抜刀して傷つけあうことがないように、発言者がこの線を越えるのを禁ずるために引かれたもので、剣をもたない現在でもなお議員はこの線を越えてはならないとされている。

ところで、大地主のジェントルマン層による支配が確立された一七一一八世紀は、鬘(wig)が大流行した時代でもあった。鬘の大きさは身分の高低を象徴しており、そこから bowing (大きな鬘)に「お偉方、大物」の意味が生じた。そんな時代に生きた画家ホガースの作品には、鬘を被った人物が至る所に登場し、図6もそうした作品の一つである。そこに描かれているのは上級裁判所の裁判官で、知的職業人として広い意味で「ジェントルマン」と見なされていた彼らの鬘は非常に大きく、鬘の大きさが法曹界の「お偉方」であることを示している。英語の中に歴史を読む」と題したこの連載だが、言葉に劣らず絵もまた、「歴史を読む」ための興味深い材料なのである。

[連載] 英語のなかに歴史を読む 〈全4回〉

Yuzuru Ishida 石田 譲 (経済学部教授)

何気ない英語の単語やフレーズのなかに秘められた昔の人々の思いがけない暮らしのありようを読み解いてみよう。

— 第4回 — ジェントルマンの世界を伝える言葉

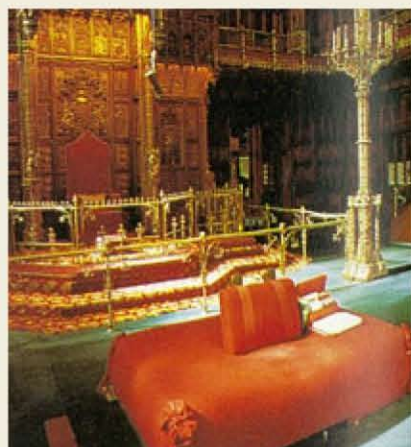
(最終回)



ホガースが描いた裁判官の大きな鬘
「裁判官席 (The Bench)」と題された作品 (1753-4) に描かれた4人の裁判官。上級裁判所である Court of Common Pleas の実在の裁判官をモデルにしている。
Jacqueline Riding, *Mid-Georgian Britain 1740-69* (2010), p.32



下院のソードライン(剣線)
イギリスの議会は議長席から見て右側に与党、左側に野党が長椅子に座って対面(討論)する形になっており、2本のソードラインの間隔は左右どちらからも刺す届かない距離(剣2本分)になっている。
John Biffen, *Inside Westminster* (revised ed., 1996), cover image



上院議長席のウールサック(羊毛袋)
貴族たちに羊毛産業の重要性を忘れさせないようにとの趣旨から14世紀にエドワード三世が設置したのが最初のウールサックとされるが、その伝統がその後も引き継がれて現在に至っている。
堀内克明編「カラー・アンカー英語大辞典」(学習研究社、1984)、p.864



羊の毛を紡ぐ女性(14世紀前半)
spinstersには17世紀に「未婚女性」の意味が生じたが、その後「婚期を逃した女性」というニュアンスが加味されたため、spinstersは女性蔑視を含んだ言葉と見なされるようになった。「未婚女性」を表す場合、現在では unmarried woman または single woman を使うのが一般的である。
Janet Backhouse, *Medieval Rural Life in the Luttrell Psalter* (2000), p.45



17世紀のジェントルマン像
1630年に出版されたジェントルマン指南書(ジェントルマンの作法を説いたもの)の表紙に描かれているジェントルマン像。
Asa Briggs, *A Social History of England* (1st ed., 1983), p.137



羊の飼育(14世紀前半)
持ち運びができる伝統的な「備み垣」の中で20匹の羊が飼育されている。
Michelle P. Brown, *The Luttrell Psalter: A Facsimile* (2006), f.163 verso



[新松戸総合事務センター(入試センター)]

見山 孝幸 職員

日々模索…

入試センター。文字通り、入学試験の担当部署ですが、その業務は入試の運営ではありません。重要なのはどうしたら大学に興味を持ってもらえるかを考えることです。

日々、高校生やご父兄、進路指導の先生とお話させていただく機会が数多くありますが、いつも感じるのはコミュニケーションの難しさです。それは、自分が何かを伝える時に自分の「ものさし(尺度)」だけでなく、話をする相手の「ものさし」を理解しながら進める必要があるということです。相手の持つ「ものさし」を自分の中に取り入れる。そうすることで一方通行の伝達ではなく、相手の立場・状況を理解した相互理解が生まれるということが実感できるようになってきました。と、いっても私が持っているものさしはまだ成長段階のもので、もっともっと伸ばしていかなければなりません。受験生の皆さんも心の中にいくつもの「ものさし」を持ってまわりを眺めてみてください。そうすることで全く違った新しい何かが見つかると思います。



[スポーツ健康科学部]

柴田 一浩 准教授

教職の経験を活かして
学生と学ぶ

学校教育現場での教職のご経験があり、また茨城県教育庁保健体育課指導主事を務められ、2010年より本学に准教授として就任された。中学・高校の保健体育科の教員を目指す学生を指導し、保健体育科教育法、スポーツ教育学などの授業を担当している。

教職を目指す学生は柴田先生の授業を履修する機会が必ずある。そのため、ゼミの希望者も多く、最も激戦と言っても過言ではない。ゼミではバレーボールの初心者指導法を題材に、基礎から段階的に学び、最終的にゲームができるようになるためにどのような方法があるのか、学生たちと一緒に教材研究をする授業は、自然とのめり込んでしまう時間であり、とても学ぶことが多いとのことである。

また、文部科学省の調査プロジェクトチームとして、体育活動中における事故防止や学習指導要領の作成に携わっており、学内外でのご活躍は目覚ましい。周囲からの信頼を集め、自然に人が集まるお人柄は、おそらく剣道のご経験から培ったものであろう。(荒井宏和・記)



[法学部]

波田 永実 教授

チャンスに応援!

日本政治論と地域社会論を担当しています。日本政治論では、自分たちの国の近現代の政治を学びます。国際化の時代だからこそ、自分たちの国の歴史や政治についてしっかりした考え方を持つ必要があると思います。また地域社会論では、自分たちの生活する地域社会(コミュニティ)がどのような構造になっている、何が課題で、それをどう変えていけばより良い生活環境が作れるのかを考えていこうと思っています。

大学においては、授業で習ったことや自分で興味を持ったことを自分の力でより深く調べて学ぶという態度が大事です。教員の仕事は、それに方向性を与えたり手伝いをしたりすることです。学生諸君には、ぜひいろいろなことに関心を持ってチャレンジしてみてください。

この夏は本学と提携している南オレゴン大学を訪問しました。すばらしい自然環境と教育環境の中で異文化体験をすることは良い勉強になります。これもチャレンジしてみてください。



[流通情報学部]

齊藤 隆春 講師

愚直に歩むことの
大切さ

英語を担当しています(専門は応用言語学)。が、高校時代は英語が苦手で、授業は成績順に席が決められ、私はいつも末席でした。北側席で冬は足元が冷えました。陽の当たる南側の、国立大学医学部に進学した旧友たちには、後光が射しているかのような様子でした。

私は1学部しかない頃の流通経済大学に入学しました。時事英語という科目を受講したところ、学生は私1名でした。S先生は時に毒舌を交えつつも、丁寧に指導してくれました。「君は僕の毒舌によく耐えたねえ」とねぎらっていたのは、1年後の取手の居酒屋でのことでした。S先生は嫌いな英語を克服して、英文学の道に進んだことも知りました。その時、私は人並みになるまで英語を勉強し続けようと思いました。

笑止の至りですが、遠回りをして、教壇に立っております。たとえ切れ味鋭くなくても、愚直に歩んでいく大切さを学生に伝えたいと思います。あのスティーブ・ジョブズ氏よろしく Stay hungry, Stay foolish の心意気が学生に必要なからです。



[社会学部]

橋本 忠昭 教授

ホスピタリティ産業で
働く

私はホテル業界で37年間勤め、シティーホテルとリゾートホテルとお客様の過ごし方が違う現場で総支配人を経験し、特にホテルの現場でサービスに従事するスタッフの重要性を痛感してきました。人材・人財の育成に関わる仕事として2000年に亜細亜大学で講師としてホテルに関わる講義をする機会を得、2007年に本学に就任しその機会は大きく広がりました。

ホスピタリティ産業は経済・文化を支える基盤となる重要な産業に移行しております。ホテルの実務事例・動向を踏まえてホテル運営・経営の基礎を軸とした講義をしております。ホテルにおけるホスピタリティは、どの企業にも通ずる概念であり人材の育成に重要であり、礼儀作法、行儀作法、言葉遣い、挨拶、常識などから始まり、「体験することから[知識(他から学ぶ)]となり、それが積み重ねられ[知恵(自分の考え)]となることにより自発的な行動が生まれ、これがモチベーションとなりホスピタリティ精神を高く持つ人になります。



[経済学部]

原 宗子 教授

中国環境史を
開拓して

本学学生諸君には、入学以前、世界史等でアジア領域の学習時間が皆無に近かったため、漢と唐とどちらが古いかさえ怪しい場合もある。今後の国際社会への対応が心配なので、歴史学入門(東洋史)で、一般常識を補う程度の基礎事象を紹介している。外国史概説(東洋史)は教員志望の諸君に、自力で教材研究できるようアジア史研究の最新状況を紹介します。史学科出身者に伍しうる歴史叙述が可能な史料批判力と分析力の構築を目指す。残る歴史学特殊講義(東洋史)が大学レベルのアジア史で、手がけてきた中国環境史の初歩を近年では講じている。環境史は、世界で活発化している新分野で、地球上、日本も古記録に富む方だが、中国大陸はその比でない。また中近東など異民族間の統治者交替により記録語が変動した地域と異なり、紀元前2千年代から今日まで同じ文法の記録が残る環境変化を通時代的に追いつく。現代社会の諸課題に内在する環境問題に対応しうる、歴史を環境から見直す力の構築を期待している。



●島影義和／しまかげ・よしかず

早稲田大学商学部卒業後、大手生命保険会社に35年間勤務。在職中に中国北京駐在を経験。産業カウンセラーの資格も取得。退職後は法政大学大学院社会科学研究科に進学し経営学修士を取得。卒業後は、法政大学キャリアデザイン学部のキャリアアドバイザーとして就任。その後、東京工業大学学生支援センター特任教授（キャリアアドバイザー）を経て、2007年、流通経済大学社会学部非常勤講師、2008年には社会学部教授に。2011年、経済学部へ配置替えとともに、就職支援センター長に就任。



馬場啓一の
RKU
ウォッチング

RKU Watching



Keiichi Baba

「面接という点、態度や物腰、服装などを問題にする向きがあります。もちろんそれも大事です。しかしキーになるポイント、あなたはどのような学生ですかという質問に対して、どう答えるか、なんです。」
なるほど、キミは何者なんだ、と。
「それに対して、自分はこれこれこういう学生で、四年間こういうことをやってきました、だから自分はこういうことで役立つ、と答えられたら、極端な話、ほぼ合格ですね。それほど重要であり、キャリア教育を重視するとは、そういう人材を育てることに他ならないのです」
自分を知り、自分の人生を知

りません。だから小論文があり、面接があるのです。ことに重要なのは、面接ですね」
よくわかります。
「面接という点、態度や物腰、服装などを問題にする向きがあります。もちろんそれも大事です。しかしキーになるポイント、あなたはどのような学生ですかという質問に対して、どう答えるか、なんです。」
なるほど、キミは何者なんだ、と。
「それに対して、自分はこれこれこういう学生で、四年間こういうことをやってきました、だから自分はこういうことで役立つ、と答えられたら、極端な話、ほぼ合格ですね。それほど重要であり、キャリア教育を重視するとは、そういう人材を育てることに他ならないのです」
自分を知り、自分の人生を知



Yoshikazu Shimakage

【第20回】
経済学部
島影義和 教授

「流経大の就職率が高いわけ」
流通経済大学の就職率が高いと評判なのは、つとに知られたところである。大いに面見のいい大学と言われる。
その理由は様々挙げられるだろうが、就職支援センターの存在は重要である。島影義和教授は、その強力な推進力たるキャリア支援部門の、キャリアアドバイザーだ。
「本学の就職率の高さの大きな要因は、煎じ詰めて言えば、入学時から、就職という目標を視野に入れた指導を学生に行っていること、でしょう」
大学に入学したときから就職活動はもう始まっている、と。
「そうなんです。といっても、大学は就職予備校ではありませんから、四六時中就職のことは

かり考えているわけではありませんが、大学三年後期から四年において就職活動が待ち受けていることは覚悟している必要があるよ、と指導しているのです」
具体的には、どのように指導されるのですか。
「これも一言で申せば、自分を知る、ということに尽きますね」
島影先生のお話はまことに判りやすい。簡にして要を得ている。余計なことは言われない。実業の世界から本学に迎えられるという経歴によるものだろう。無駄がないのだ。
「企業であれ役所であれ、得た人材とは使える人材です。しかし大学の学業成績や学科試験の出来だけでは、それは、わか

女子野球を
どんどん日本に
広めていきたいと
思っています。

——碓さんは、スポーツ健康科学部の
一期生ですね。

そうですね。私はもともと高校の
保健体育の教員になりたかったの
ですが、何より大学でも野球が統
けられることを希望していました
ので、流経大に進学しました。

私たちは一期生ですので、「一
緒に学部を作っていこう」という
気持ちで学生の間にとても強く、
みんな仲良しで良い雰囲気でしたよ。
特に女子は人数も少なかつ
たですから、本当に仲がいいん
です。先日友人の結婚式で久
しぶりに東京で再会しましたが、
私がプロで頑張っていることを
応援してくれて、とても嬉しかっ
たです。

——学部で勉強したことで、印象に

——それで四年生の時にプロテスト
を受けたんですね。今は、大阪で寮
暮らしということですが。

私は大学までずっと自宅から
通っていたので、初めての寮暮らし
です。四年生の時にテストを受
けるにあたって、家族は「自分の
選んだ道であれば、信じてがんば
りなさい」と応援してくれました
し、私自身も迷いはなかったです
ね。ただ、当たり前ですが、自分
のことは自分でやらなくてはいけ
ませんから、そういう意味で社会
人として少しは成長したかなと思
います。

——碓さんは、現在専門学校にも
通っていらっしゃるということだ
ですが。

はい。私は大卒の学位と教員免
許を持っていますが、それだけで
はなく、さらに現在のプロを退い
た時のセカンドキャリアのために、
女子プロ野球では、選手全員が夜
間に学校に通って勉強することが
義務づけられているんです。

——それでは、平日は学校ですよ
とてもお忙しい毎日ではないでしょ
うか。

この寮は、女子プロ野球三チー
ムの選手全員が住んでいて、だい
たい五〇人くらいなのですが、朝

OB/OG訪問

立川が 聞く。

小学生の時に野球を始め、本学在
学中にプロテストを受けて女子プ
ロ野球の道に進んだ碓美穂子さん。
現在は大阪プレイビーハニーズの
キャプテンを務め、日々練習に励
んでいます。

第42期生
(2010年3月 スポーツ健康科学部卒業)

碓美穂子さん
Mihoko Ikari

〈取材〉
立川和美 (社会学部准教授)



残っていることはどんなことですか。

四年間のゼミで専門的な勉強に
加え、社会に出て必要な人間とし
ての基礎力を養うことができたこ
とがとてもよかったですね。また
一年生で沖繩に海浜実習に行った
のですが、救命救助の実習を通し
て命の尊さを学ぶことができたこ
とは、本当に貴重な経験だと思っ
ます。

スポーツの専門科目についても、
先生方がとても熱心に指導してく
ださり、非常に充実した学生生活
でした。

——本学には女子野球部はありませ
んが、大学時代はどのように練習さ
れていたのですか。

私は「侍」というクラブチーム
に所属していました、そちらでの

は共同部分の掃除をすませてから、
バスでグラウンドに移動して練習
昼食後も自主練習をし、夜は学校
に通い、帰宅後も勉強です。試合
はだいたい週末に入ります。自分
の時間はなかなかとれませんね。
——現在、大阪プレイビーハニー
ズのキャプテンを務められていらっ
しゃいますね。

チームのメンバーに推されて
キャプテンになったのですが、結
構、個性が強いチームなので難し
いこともあります(苦笑)。ただ、
みんなが自分を見て動くことを考
えると、責任の重さを感じていま
す。また、私たちはプロですから、
ただ「好きでプレーしている」の
とは全く違うんですね。私たちの
試合を見に来て応援してください
方々がいるわけですから、いいプ
レーを見せなくてはいけませんし、
中途半端な気持ちではやってはい
けないと思っています。また、毎
年新人が入ってきますが、成績の
悪い選手はチームを去らなくては
いけなくなりますから、そういう
意味でも非常に厳しい世界だと思
います。

——最後に流経大生にひとことお願
いいたします。

大学時代には、自分のやりたい

試合や練習がありました。普段
は男子野球部のご好意で、大学の
施設を提供していただき、授業の
後、毎日一緒にトレーニングをし
ました。女子で野球をしていたの
は、私ともう一人(豊田真弓さん)
だけでしたが、こういったご配慮
をいただけたことは、本当に有難
かったです。

——もともと教員志望でいらっ
しゃったのですが、現在は女子プロ
野球で活躍されているんですね。

はい。私は小学校六年生の時に、
松坂大輔投手にあこがれて野球を
始めたのですが、中学では男子に
交じってプレーをしていました。
高校は女子野球部のある埼玉栄高
等学校に進みましたが、実は高校
で女子野球部があるのは現在でも
全国で一〇校程度なんです。日本
の女子野球チームはワールドカッ
プで今年も金メダルをとり、これ
で三連覇なのですが、こういった
ことも男子に比べると知られてい
ないですね。

そこで私は、女子野球をどんど
ん日本に広めていきたいと思っ
ているんです。その目標達成のため
に、今自分ができることは、女子
プロ野球でプレーすることではな
いかと考えたわけです。

と思ったことを最後までやりきつ
てほしいと思います。社会に出る
と、必ずしも自分のやりたいこと
ができるとは限りません。でも、
学生時代に自分のやりたいと思っ
たことに全力を注いでいけば、何
らかの形で、そこで得た力が社会
人としての自分につながると思っ
ています。

私は学生時代に野球に力を注ぎ、
今の仕事に結びつけることができ
ました。ただ、プロとして仕事を
するには年齢的な限界があります。
そう言った時は、高校で女子野球
を教えたいと考えています。野球
というスポーツの楽しさ、チーム
が一つにまとまった時の素晴らし
さなどが教えられるらと思ってい
ます。こういったことも、やはり
大学で頑張ったことが大きく影響
していると思います。

自分でこれだと思ったことに全
力で取り組むことが、後々に大き
い力となるのではないのでしょうか。

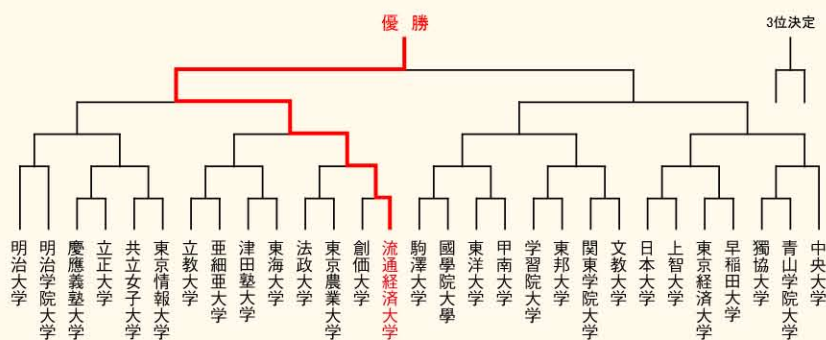
碓さんは、大学を卒業されてまだ3
年ですが、非常に礼儀正しく、思い
やりのある人柄でチームメイトから
慕われている素敵な女性です。質問
に対して、一つ一つ言葉を選んで丁寧
にお答えくださり、何事に対しても
真面目に向かう姿勢が感じられまし
た。時々時間が取れると、チーム
メイトと一緒に愛車の黄色いパジェ
ロミニでドライブをしているとのこと。
「この前、初めて琵琶湖に行っ
てきました。まだ関西の道はあまり分
からないので、ともかくいろいろな
所に行くのが楽しいんです」と笑顔
で話され、明るく飾らない素顔も見
せていただきました。



《第49回》日本私立大学連盟教職員野球大会 **優勝**

本学教職員野球部は、8月1日から3日に開催された2012年度第49回日本私立大学連盟教職員野球大会において、3年ぶり2度目の優勝を果たしました。

《第49回日本私立大学連盟教職員野球大会 組み合わせ》



- 1回戦 vs 創価大学 10対0
- 2回戦 vs 法政大学 5対4
- 3回戦 vs 立教大学 21対0
- 準決勝 vs 慶應義塾大学 9対0
- 決勝 vs 日本大学 3対0

大会結果・表彰選手

優勝 流通経済大学
 準優勝 日本大学
 3位 学習院大学
 4位 慶應義塾大学

【表彰選手】
 MVP 若山昌弘 (流通経済大学)



今回の大会でも2人の学生トレーナーがチームに帯同し、選手にアイシング、テーピングやマッサージをするなど、優勝に貢献してくれました。

石川清隆さん (スポーツ健康科学部2年)

今年、優勝に輝いた瞬間とても鳥肌がたちました。少しでも我々のサポートが優勝のお役に立てたと思います。素晴らしい時間を過ごさせていただき、ありがとうございました。



内藤大貴さん (スポーツ健康科学部1年)

今回初めて職員野球の試合のサポートをさせていただいて、優勝することができて本当に良かったです。来年は記念大会なので、来年も連覇できるようにサポートしていきたいです。



Hello!
international
student!



留学生紹介

vol.19

国をつなぐ仕事、貿易に関する仕事がしたいという大きな夢を持つ中国の遼寧省大連市出身のリンさんに、お話を聞きました。

取材：沖野雅広(企画広報室)



「『カワイイ』ものを自分の目で見つけて販売することが私の夢です」

流通情報学部流通情報学科3年 林晶晶(リン・ショウシヨウ)さん Lin, Jingjing

リンさんは東京都内にお住まいのことですが、日本での生活に満足していますか？

はい。日本には、二〇〇八年の一月から住んでいますね。日本に来る前は、シンガポールにも留学していたことがあるので、住むのは三カ国めということになります。

現在は都内で母と二人での生活をしています。都内は最新の流行だったり、新商品を目にする機会が多いので大変満足しています。

シンガポールへ留学していた時は、何を勉強していたのですか？

将来の夢が、自分の好きな洋服や雑貨を販売する会社を営むことだったので、経営学の勉強をしようと思って留学しました。

同じ学校の友達と一緒にの留学

だったので生活面の悩みはなかったんですが、現地の人たちとあまり交流できなかったのが少し悔やまれます。ただ、新しい発見もあったので、留学はとても良い経験となりました。

その新しい発見とは何だったのですか？

偶然だったのですが、留学中の休日に友達と行った港でのことです。そこは、シンガポールでも有名な大きな港だったので、その現場に驚きました。国と国とが繋がっている、そんなスケールの大きさに圧倒されたのを今でも覚えています。

そして、「会社を経営する」という夢から国をつなぐ仕事、貿易に関する仕事がしたいと思いました。

という、具体的にはどんな仕事でしょうか？

私の夢は変わりません。です

が、販売するものを自分の足でいろいろ歩いて見つけて、自分の目で「カワイイ」と思ったものを販売していきたいと思っています。

その目標をカタチにするため、ロジスティクスに関して勉強できる、流通経済大学への進学を決めたんです。

流通経済大学では、その目標をかなえるための勉強ができますか？

私の在籍している流通情報学部では、私の将来に役立つ「物流システム論」や「物流ターミナル論」など、ロジスティクスとは？、「貿易とは？」を一年から勉強できます。

三年生になり、専門的な講義が増えました。でも、取り組んでいると、理想とする将来の自分に近づいている気がするのです。充実した生活を送ることができています。

全学

11月
3日~4日 ●つくばね祭(龍ヶ崎キャンパス)

12月
25日~1月5日 ●冬期休業

1月
7日 ●授業開始
15日~28日 ●秋学期定期試験
29日~3月31日 ●春期休業

就職関連

10月 ●就職ガイダンス
(エントリーシート対策)
●4年生内生定者による
就職活動体験発表会

11月 ●就職セミナー
(企業が求める人材像)
●就活マナー講座・面接実践指導
●就職ガイダンス
(OB・OGからのアドバイス)

12月 ●女子学生ガイダンス
●就職セミナー
(企業が求める人材像)
●グループディスカッション講座

1月 ●業界・企業説明会

[編集後記]

●この夏の「酷暑」と「少雨」にうんざりしましたが、9月に入ってから続いたのは閉口しました。熱中症の多発に加え、一部地域ではゲリラ豪雨の被害も出ているのに、首都圏の水瓶となる利根川水系のダムでは、7月以降の降雨量が少なかったために貯水率が大幅に低下し11年ぶりの取水制限が行われたダムが出るなど水道水の安定供給に不安感を抱かせる時期もありました。また、矢木沢ダムの貯水率が10%を割り込みほぼ干上がった状態になってしまうなど、酷暑と少雨の厳しい気象条件をのりこえてようやく本格的な秋を迎えることができました。

●秋学期が始まってほぼひと月。まもなく読書週間(10/27~11/9)が始まります。活字離れが言われて久しいですが、反面、スマートフォンやタブレット端末を利用する電子書籍の人気はどんどん高まっています。五感で楽しむ「本」の魅力は、ある程度歳を重ねないと理解がたいものかも知れませんが、形態はともあれ、先人たちの叡智や歴史、最新の技術やニュースを柔軟な感性で取り込みつつ知的探求心を育てていってほしいものです。

●約31万7千冊を蔵する龍ヶ崎キャンパス図書館は、このたび外壁のクリーニングと再塗装工事を終え、蒼く深い秋空にひととき白くそびえています。学生食堂には、秋の食材を使った季節のメニューが並ぶようになってきました。また、新松戸キャンパスの「青春祭(学園祭)」は6月中旬に開催済みですが、龍ヶ崎キャンパスでは11月3、4日開催の「つくばね祭(学園祭)」控え、懸命に準備に取り組む学生が多く見られるようになり、キャンパスは秋本番といった雰囲気漂う今日この頃です。(編集子)

オリンピック代表選手壮行会

3

7月12日、スポーツ健康センター(Mアリーナ)にて、ロンドンオリンピックに出場する選手たちの代表壮行会が行われました。当日は学生、市民をはじめおよそ1,000名もの参加者があり、そのたくさんの方々

から激励を受けていました。在学生からは、学生・教職員・卒業生・市民が折った鶴文字やメッセージが書かれた寄せ書きが贈られ、柔道部からはエール。チアリーディング部から応援演技が披露されました。



2012年度 第1回読書コメント大賞

4

流通経済大学図書館が開催する「読書コメント大賞」は、学生が読書をして感じたことをポップ広告風にまとめた作品から、優秀なものを選考する企画です。

7月に行われた2012年度の第1回読書コメント大賞には164点の応募があり、6点が大賞に選ばれました。

<2012年度 第1回読書コメント大賞 6作品>



藍原佑貴 (経営学科2年)

「いのちの砂時計：終末期医療はいま」
共同通信社社会部 著 (日本評論社)



豊増悠里 (経済学科1年)

「あなたが世界を変える日：12歳の少女が環境サミットで語った伝説のスピーチ」
セヴァン・カリス＝スズキ 著・ナマケモノ倶楽部 編・訳 (学陽書房)



高村俊生 (自治行政学科1年)

「風が強く吹いている」
三浦しをん 著 (新潮社)



鈴木一樹 (経済学科3年)

「聖母マリア」
シルヴィ・バルネイ 著 (創元社)



岩崎杏香 (国際観光学科1年)

「阪急電車」
有川浩 著 (幻冬舎)

鈴木 倫 (経済学科2年)

「県庁おもてなし課」
有川浩 著 (角川書店)

海浜実習

1

毎年恒例の海浜実習が6月26日~7月2日に沖縄県渡嘉敷島にて実施されました。スポーツ健康科学部1年生全員が2班に分かれて出発し、「生命の尊厳」「人間力」について自然の中で学び考えるという体験を通して、彼らが得たものは大きかったのではないかと思います。



AED講習会

2

8月28日、龍ヶ崎市教育委員会との共催で市内の私立幼稚園や保育園、小・中・高の教職員を対象に自動体外式除細動器(AED)を使った研修会を開催しました。

80名を超える参加者たちに、午前には本学スポーツ健康科学部の小峯教授による救急救命の重要性の講演、午後からは、心肺蘇生訓練用の人形を用いて実地体験を行いました。



第47回つくばね祭 (龍ヶ崎キャンパス学園祭) 開催のお知らせ

11月3日(土) 4日(日)

今年も学生たちがさまざまな企画を用意して皆様のご来場をお待ちしています。

【主な内容(予定)】
各種模擬店 / 展示 / お笑いライブ / 音楽ライブ など

お問い合わせ つくばね祭実行委員会
TEL:0297-64-0949 (受付時間12:00~16:00)



※写真は昨年のつくばね祭の様子。

RKU OPEN CAMPUS 2012

流通経済大学2012年度オープンキャンパスは、9月15日（龍ヶ崎キャンパス）をもって終了いたしました。
 学生アドバイザーを中心としたスタッフによる説明や、教員による模擬授業で、
 本学についてより知っていただくことができたのではないかと思います。
 今後も入試相談会やキャンパス見学、各種ご相談など、随時受け付けておりますので、
 入試センターまでお問い合わせください。



《入試日程（11月～12月）》

入試種別	期	出願期間	試験日
指定校推薦		10/22(月)～11/6(火)	11/10(土)
公募制推薦	I	10/22(月)～11/6(火)	11/10(土)
	II	11/8(木)～12/4(火)	12/8(土)
AO	III	10/29(月)～11/14(水)	11/17(土)
	IV	11/19(月)～12/11(火)	12/15(土)

TOPICS>>>
 詳細は、募集要項及びHPでご確認ください。

入試相談会
 両キャンパスで開催中

[平日] **9:00～17:00**
 [土曜日] **10:00～14:00**

※開催日はホームページでご確認ください。

流通経済大学入試センター

☎ 0120-297-141

✉ ees@rku.ac.jp
 🌐 <http://www.rku.ac.jp/go>
 📱 <http://www.rku.ac.jp/go/m>

**2013年度
 流通経済大学の
 新しい入学試験
 「奨学生選抜入試」
 スタート!**



RKU RYUTSU KEIZAI UNIVERSITY

流通経済大学広報誌 **RKU Today vol.21** 2012年10月発行
 編集・発行／学校法人日通学園 流通経済大学企画広報室
 茨城県龍ヶ崎市平畑120 〒301-8555 TEL：0297-64-0001(代表)

Association of Japan University Accredited

 UNIVERSITY ACCREDITED
 2008.4～2015.3